

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」富田校			
○保護者評価実施期間	2025年11月4日 ～ 2025年12月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26人	(回答者数)	23人
○従業者評価実施期間	2025年11月4日 ～ 2025年12月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育が主だが、就学前準備として小集団活動を取り入れていること。	集団活動は、静と動の活動をバランスよく組み合わせ、様々なスキルを育まれるよう工夫している。	保護者と定期的に話し合いを持ち、こどもの進捗や家庭での様子を共有することで、一貫性のある支援を行う。
2	支援後のフィードバックは家族との対話を通じて深めていること。	フィードバックを行う際に、こどもの成長や頑張りを伝えることで、保護者が前向きに受け止めやすくなるようにしている。	フィードバック内容を職員間で共有する仕組みを整えることで、職員全体の支援の質の向上を図る。
3	支援の実施は担当制にしている。この体制により、担当者同士が情報を共有しながら支援を進めていること。	2名の担当者をつけることで、情報共有や意見交換をしながら支援を進めることができる。	担当者同士がミーティングを行い、支援状況や課題、こどもの変化について意見交換をすることで、支援内容の見直しや改善を迅速に行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の経験や専門性知識の違いにより、支援の質にばらつきが生じること。	職員の経験の違いが、支援の質に影響を与えているため。	支援方針や対応方法の共有を行い、研修や事例検討を通じて支援の質の向上を図る。
2	体幹トレーニングに使用する教材や道具が不足していること。	今年度は他の教材の充実を優先したため。	次年度の予算を活用し、教材や道具の購入を予定している。
3	長年個別療育を専門としていたため、小集団療育に対するスキル等が追いついていないこと。	小集団療育の経験のある職員が少なく、全体的に見聞や経験が不足しているため。	社内の他の校舎とも連携を図り、集団療育に関する研修を受ける機会を増やす。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「きらり」富田校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数

26人

回収数

23人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	6				現在のスペースを踏まえ、無理のない範囲で実施可能な活動を検討し、安全に配慮した内容を工夫していく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	22	1				定員以上に職員を配置している。担当制にしているが、職員間で情報共有をしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	3				こどもの特性や活動目的に応じ、適切にスペースを分けて支援を行っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	2				清掃と感染対策の徹底をしている。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	1				職員同士で知識やスキルを共有し、それぞれの強みを活かしながら支援の質の向上に努めている。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20			3		事業所が公表している支援プログラムは、提供されている支援内容である。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	2				こども一人ひとりを十分に理解した上で、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析し、支援計画を作成している。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	2				設定されている支援内容に不明点や改善が必要な部分があれば、検討していく。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23					支援計画をもとに、計画内容に沿った支援を継続して実施している。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20	2		1	固定化していると思うが、その中でも全く同じにならないよう工夫している。	活動の幅を広げながら、達成感や成功体験に繋がる支援を行えるよう、職員間で連携している。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	11	4	4	4	利用したことがないので分からない。	個別療育のため、活動していない。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23					契約時、丁寧な対応を心掛けている。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23					常に、丁寧な説明を心掛けている。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	5		1		ペアトレーニングや研修会、情報共有の機会は設けていないが、フィードバックを活用して必要な情報やアドバイスを提供している。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	23					フィードバック等を通して、こどもの様子や、日々の変化や育ちの様子について保護者と共有し、共通理解を図ることができている。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17	5	1			面談の機会を設け、日々のやり取りの中でも子育てに関する相談や助言を行っていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21	2				職員間で情報共有を行い、保護者のニーズに合わせた助言や支援策を具体化し、個別に対応できる体制を構築している。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	6		2	兄弟同士があるかは分からないがイベントはたくさんある。	年に2回の保護者会と、季節のイベントを開催している。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	2				相談や申し出があった場合は迅速に対応している。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23					些細なことでも確認や報告を行い、保護者からきちんと対応してくれていると感じてもらえるよう努めている。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	3		3		ホームページやLINEにて情報を発信している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	2				鍵付きの書庫で保管している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	1	2	1		マニュアルを策定し、事故発生を想定した訓練も実施している。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19		2	2	まだしたことがないので分からない。	子どもの安全確保に関する計画が事業所より示されており、マニュアルの整備や想定した訓練を通して、日常的に安全への備えを行っている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	2		1		常に、丁寧な対応を心掛けている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	1		4	事故等にあったことがないので分からない。	事故等が発生した際には、事業所から状況や対応内容について説明をする。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	23					今後も子どもたちの気持ちを受け止めながら、誠実に対応していく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	23					今後も子どもたちにとって楽しい場所・心地良い場所を提供していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	1				今後も子どもたちの特性を理解し、子どもたちに寄り添った支援を提供出来るように努めていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 ともサポート教室「きらり」富田校

公表日 2025 年 2 月 14 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーティションで間仕切りをし、個別療育の適切なスペースを作っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		定員以上に配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		こどもの特性や用途、他の児童との組み合わせによってスペースを使い分けている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃と感染対策の徹底をしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別療育のため、個別の部屋の提供や、ニーズに合わせて適切に調整している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		共有ファイルを使って、進捗状況を随時確認できるように進めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		頂いた意見をもとに検討、改善している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内で閲覧できるようにし、ホームページでも公表している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		保護者・社内の二者評価をとっている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		ZOOM会議を使用した定例研修や対面研修、また、外部研修を受講している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		事業所内で閲覧できるようにし、ホームページでも公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを適切に行い、ニーズ、課題を分析して作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		責任者だけではなく、支援者もこどもの最善の利益を守るために慎重に検討が行われている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員が一貫した方針のもとで支援を行い、支援の質の向上とこどもと保護者のニーズに適切に対応している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		会社共通のツールを使用している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに基づき、こどもと保護者の状況やニーズに合わせた支援を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児童発達支援計画をチームで話し合い作成している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		児童発達支援計画をチームで話し合い作成している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別療育が主であるが、こどもの状況に応じて、集団SSTを取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		ミーティングを実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		必要に応じて終業後にミーティングを実施している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援記録をとり、検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6ヶ月以内に1回以上、モニタリングを実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議には基本担当指導員が参加するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		連携を図ることで、支援の質の向上と、より個別化された対応ができるようにしていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		現在は個別療育のアプローチが中心となっているため、まだ十分な情報共有や総理解が進んでいない場面がある。今後、連携を図っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		こども発達支援センターと連携し、研修にも参加している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		短時間の個別療育のため実施していない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の振り返り時に行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		日々の振り返り時に保護者へのアドバイスをしている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に、丁寧に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		こどもや保護者の意向を優先しつつ、支援目標がこどもにとって適切に見極めたうえで柔軟に対応している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者が理解しやすいように計画の内容や目的を詳しく説明し、質問や懸念に答えている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日々の振り返り、およびモニタリングや面談の時間を設け相談に応じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年に2回ほど保護者懇談会を開催している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れがあった時には迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページやLINEにて情報を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの書庫で管理している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		障がい特性に配慮して意思疎通の工夫を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	○		地域の安全を高めるために警察署や消防署を招いて避難訓練を実施している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを作成し、職員・保護者に周知している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		1か月に1度避難・防災訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		食事の提供はないが、契約時にアレルギーの有無について確認をしている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		毎月様々な状況の訓練を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の内容を家族に理解してもらい、こどもが安心して成長できる環境を作っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		小さな状況でもヒヤリハットを作成し、共有できるツールを作成している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、毎月1回、研修を受講している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に説明をし、やむを得ず身体拘束を行う場合は個別支援計画に記載している。	